

## ごあいさつ

富士通アクセス株式会社  
常務取締役 山口 一雄



新年明けましておめでとうございます。

弊社は、「お客様や社会のニーズにもっともっとアクセスしたい」という思いを込めて、2002年に富士通アクセス株式会社と社名変更いたしました。そして、お客様に更にご満足頂くべく、アクセスネットワーク事業を核に、社会システム事業、パワーエレクトロニクスシステム事業を力強く推進しております。

ご存知のように、世の中の景気は薄明かりが見えたとはいえ、まだまだ厳しい状況が続いております。加えて情報通信業界では、非常に大きなパラダイムシフトが起り、従来の価値観がどんどん崩れ去っています。IT時代になって企業のバーチャル化、そしてグローバルな視点での水平分業が進み、激しい価格下落が起きる中で、企業は生き残りをかけた熾烈な競争を余儀なくされ、従来の開発、製造手法の根本的な見直しが求められています。また、IP技術を駆使したインターネットはブロードバンド化が進み、ADSLの加入者数は1000万人を越える勢いとなり、FTTH (Fiber To The Home) の加入者数も100万人に迫る状況です。更にはマルチメディア化が進み、従来のデータにIP電話、映像を加えたトリプルプレイサービスも開始され、同一ネットワーク上で様々なサービス品質を確保する新しい技術が必要になりました。

今後も激しく状況が変化し、厳しい場面も多々あるとは思いますが、視点を変えれば、技術屋は大変に良い機会に恵まれていて、いくらでも研究開発する種はあり、またビジネスチャンスがあります。このような混沌とした時代だからこそ、これを抜け出すための研究開発が更に重要となります。当社では「LAN機器並の価格で、SONET並の品質を持った装置」を合言葉にして、価格と品質の両方を厳しく追求した製品開発・製造を行っています。また、存続が厳しく問われている日本国内での「ものづくり」に取り組み、海外製造に負けないローコスト製造ラインを構築し、日々進化させています。

今回ここに、ADSLやFTTHなどのブロードアクセス関連システム、施設管理などの社会システム、無線基地局用電源装置などのパワーエレクトロニクスシステム、そしてFTTH端末用ローコスト製造ラインに関する技術論文および製品紹介をまとめ、「FUJITSU ACCESS REVIEW 第19号」として発行することができました。皆様方には、ご高覧の上、より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、本年の明るい幕開けを迎えられますようお祈り申し上げます。